

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003132		
法人名	社会福祉法人 北見有愛会		
事業所名	グループホーム ライラックス		
所在地	北見市川沿町145番地80		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気持ちよく過ごせるように、ホーム内、外回りの清掃を心がけ、清潔を保てるように心がけています。活動的に過ごせるように、天気の良い日は散歩、室内ではランプやかるたで遊んでおり、いつも笑いが絶えないにぎやかな事業所です。今年度は利用者様に教えてもらいながら、漬物作りに挑戦し、おいしくいただく事ができました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195003132-00&Se
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に2ユニット15名で北見市の南地区に開設されたグループホームライラックスの付近は住宅地であり、近隣には幼稚園や小学校があり登下校時には子供たちの声が聞こえる地域となっています。春季には運動会への見学等を行っていましたが外出を制限しているため現在はできない状況になっています。今年度新型コロナウイルス感染症の影響で多くの制約がありますが、町内会役員の発案で行方不明者捜索訓練や、認知症サポーター養成講座の開催に協力して理解を得ています。その中にあり管理者、職員は利用者の思いが実現出来るよう会話の中から把握し実現に努めています。ゲームを工夫したり、塗り絵や間違い探しの懸賞応募に挑戦し楽しんでます。また、漬物が得意な利用者によっていただき食事の時に提供し喜ばれています。そうした一人ひとりの特性や特技をする事で満足感を感じてもらえる取り組みを行っています。馴染みの友人の訪問が出来なくなっている現在、電話で関係が途切れない様支援しており、家族とも満足に会えない状況も電話連絡や、毎月写真を多く掲載した通信を発行し家族に安心してもらえるように努め、信頼関係が出来ています。管理者、職員は自分や家族がされたら嫌なことは絶対にしない事を鉄則に「あい、ともに」の理念を実践しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時の入居者と考案した理念は見やすい場所に掲示したり、ご家族への案内文書に載せるなど、どなたが見てもわかるようにしている。	開設時に利用者の言葉をもとに定めた「あいともに」を理念に見やすい場所に掲示し、会議では確認しながら共有して実践できるように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には散歩や買い物に出かけ、地域住民の方々には、近くに施設があることを認識され、気軽に声かけしていただいている。	地域との関係は良く、町内会総会や清掃活動、行事等に参加しています。法人のお祭りに参加して頂いており相互の交流しています。現在新型コロナウイルスの影響で交流は少なくなっていますが、今年度町内の行方不明者捜索訓練や認知症サポーター研修の協力を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の認知症サポーター研修や行方不明者の捜索訓練などに参加させていただき、地域の方の認知症の対する理解を深めていただくような機会をいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況報告や相談・連絡を行っている。今年はコロナの感染防止の為、ホーム内では行えないため、書面にて報告させていただいている。	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で総て書面会議で行っています。利用者家族にも資料を送付して情報共有をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険法や報酬についての難解な部分はその都度市の担当者に確認したり、運営推進会議に出席していただいている。(コロナ渦以前)	市担当者とは報告書提出や利用状況報告で訪問したりメールで連絡を取っており、状況確認や指導、助言を得て積極的に連携を取り協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置、体制を整え身体拘束の禁止の具体的な行動や不適切ケアについて、内部研修や毎月の会議でも確認し合い、日々の支援の中で全職員が意識できるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けては4グループホームで高齢者虐待防止委員会と合同で委員会を設置しており毎月開催して、各グループホームの事案を検討しフィードバックしています。不適切な言葉遣いの問題が取り上げられ職員への指導がなされ、適切な介護が出来る様に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の設置、体制を整え、虐待の具体例や防止策について内部研修を行い、毎月の会議でも話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居されている方にも成年後見制度を利用されている方がおり、ご家族がいない又は遠方にいるかたもおり制度の必要性は感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族の意向を確認しながら、わかりやすい言葉で丁寧な説明を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に会話や表情などから気持ちをくみとることができる関係作りに努めている。ご家族には来所持に近況報告をしている。	利用者、家族の要望は面会時や日常の会話の中で把握するよう努めています。現在は新型コロナウイルスの影響で家族との面会は制限していますが、受診時や届け物の時に様子を伝えたり毎月の手紙で知らせコミュニケーションを取るようにし要望は反映できるように取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中で運営に関する質問や意見を自由に話し合える環境作りに努めている。	職員の意見や提案は業務の中や毎月の会議の中で自由に提案できる環境を作っており、出された意見は4グループホーム管理者会議で提案され反映できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力にあった給与内容の見直しを行うと共に、随時有給休暇をとることができるように勤務調整と環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がスキルアップできるように研修会やグループ内での勉強会にできるだけ参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他事業者との交流は日常的に行われており、勉強会などの場面では活発な情報交換が行われている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、自宅や病院などを訪問し、状態を把握した上でご本人からの意見や意向を確認しながら、不安を取り除けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの葛藤や、入居してからの不安や要望などについて話を傾聴し些細な事でも相談していただけるようお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望を伺いながら、わかりやすい言葉で説明し、一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に喜怒哀楽を共にし、時には人生の先輩として、職員の話聞いてもらったりと、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所持や電話にて状態報告を行い、ご家族と連携をとりつつ、過度の負担にならないような協力をしていただく事でご本人と一緒に支える支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が気軽に訪ねて来られるような雰囲気作りを努めている。面会ができない時には電話やお手紙で連絡を取り合っている。	現在は新型コロナの影響で知人の訪問は出来ない状況になっており、電話で連絡を取り関係が途切れないよう支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の橋渡しをすることで孤立しないよう見守っている。2Fの入居者が1Fに来てゲームをしたり、1Fの利用者が2Fに遊びに行くこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に支え合った者として、いつでも気軽に連絡していただけるようお伝えしている。入居者を紹介されたり、マスクの寄附などもいただいております。人のつながりを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や生活歴、習慣などを参考に、ご本人に確認しながら、職員同士で話し合い、利用者本位の支援ができるよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、生活歴や家族からの話を参考に本人との会話の中で把握し、職員間で共有しながら実現できる様に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報を元に馴染みの生活や経験を生かした活動の支援ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各記録や申し送りを活用し、その日の様子を確認しながら、一人一人の能力にあった活動ができるよう、職員同士話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議では入居者の状況を確認し合い課題分析を行う中で、支援内容がわかりやすいか、ご本人やご家族の意向に添えているか様々な角度から検討し、介護計画を作成している。	介護計画は短期目標期間で見直しを行っており、利用者、家族の要望を反映し担当職員のモニタリング、カンファレンス、サービス担当者会議を開催し現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は時系列に1日の様子やご本人の言葉などありのままに記入し、情報を共有することでケアの振り返りや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行動的な入居者は、外出の希望が頻繁にあるが職員の数など考慮し、出来る限りの外出支援をしている。希望に添えない日はゲームなどをして楽しんで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をよくすることで、地域の方々に広く認識していただき、近隣の方から野菜をいただいたりして、地域の皆様との交流がはかれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで通院していた病院の継続や、状況に合わせ医療機関の追加や場合によっては往診など状態にあった支援をしている。	これまでのかかりつけ医へ家族と協力して受診を行っています。往診を受けている利用者もあり、毎週法人の看護師の訪問があり状況に合わせた医療体制で支援を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師による健康チェックを行っている。職員も正確に日々の状況を記録、説明を的確なアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供の際に、認知症状について具体的に情報を伝えたり、入院中は状態の把握や今後考えられることの相談や情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からかかりつけ医やご本人とご家族と十分に話し合い、ご本人が最後の時まで望むケアを受けられるよう、関わる者全員で共有している。	重度化した場合や終末期に向けては指針を作成し初期段階で家族へ説明し理解を得ています。医師の終末期判断があった時には再度家族への説明を行い医療機関、家族、事業所の連携で取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が緊急時対応できるよう、マニュアルを整備し研修を行い緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の実践的な避難訓練を行うと共に、近隣住民の方に災害・緊急時協力支援者として災害時には昼夜問わず協力してもらえるよう体制を整えている。	火災の避難訓練は年2回消防署の指導、助言を得て実施していますが、現在は自主訓練で行っています。緊急時は地域の協力が得られるよう日常から協力関係を築いています。また、ポットストーブ等の防寒対策の備えも行っています。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ちながら、なれ合いの関係とならないように、個々の人格を尊重した対応を心がけている。	一人ひとりの人格や誇りを傷つけない言葉かけは、業務の中や会議で適切な対応ができるように指導しています。自分が嫌なことは言わない、行わないを鉄則にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や意見を尊重し、それぞれの興味や話題の提供、選択肢を用いるなど混乱せず、自己決定ができるよう支援していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているが、利用者の生活習慣やペースに配慮し、その人らしい暮らしができるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、清潔に心がけている。2か月に1度は職員が散髪している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを食材の話から好みを聞いたり、食事の思い出を聞きながら一緒に盛り付けをしている。食後は台所の片づけを積極的にお手伝いして下さる方もいる。	食事は系列の配食サービスを利用しており、ご飯、お味噌汁は事業所で用意しています。行事の時は行事食を事業所で作ったり、誕生日はケーキで、お祝いをしています。用意、片づけは利用者と一緒にっており、本年度はお漬物を作ってもらい皆で食っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し食欲低下がみられる際には、好みの物や摂取しやすい物を用意したり、状態によっては主治医に相談するなど個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。うがいができなかったり、むせこんでしまう方には口腔ケアガーゼを使用している。義歯は毎晩預り洗浄液にてケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない声かけ誘導や介助を行いADLや自尊心の維持・向上につながるよう対応している。	一人ひとりの排泄記録を作成し、利用者の動向や状態、仕草等のサインを把握し職員で共有して声掛け誘導でトイレでの排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は決まっている為、おやつにヨーグルトを出したり軽運動などの声かけをしたり工夫をしている。運動が難しい方は排便チェック表を活用して便秘薬の調整を行い便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をしているが気分がのらない時には無理強いせず日時を変更したり職員交代するなど柔軟に対応している。	入浴は基本的には週2回、その日の状態や状況を踏まえ取り組んでいます。入浴剤で気分を変えたりしながら気持ちよく入浴できるよう配慮しています。利用者の状況により2人介助で支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はゆっくり寝ていただくよう日中は体操やゲームなどなるべく活動的に過ごすようにしている。また眠れない時には職員が話し相手になることで、不安な気持ちを和らげるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の確認と整理を行い、用法・用量や副作用などを理解し、症状に変化がある場合には速やかに医療機関に報告できるよう状態把握に努める。誤薬がないよう職員同士で氏名や日時などの確認を怠らないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常会話からその人に合ったお手伝いをお願いしている。かるたやトランプ、オセロ、散歩など楽しみを見つけられるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や状態に合わせた外出支援をしている。天気の良い日は近所を散歩したり花の水やりが日課となっている。	外出は季節により桜や花を見にドライブに出かけたり買い物や自宅へ様子を見に行く等の支援を行っていますが現在は近所への散歩や外気浴、グループホームの庭でのBBQ、畑での散策を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望もあり、ほとんどの入居者はホームで管理しているが場合によってはご家族と相談の上、少額のお金を所持されていることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には入居者自らが話したい相手と気軽に電話ができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターで花をそだてたり季節に応じた装飾をすることで季節を感じる空間になるよう心がけている。また換気や加湿器を使用して室温調節や温度を保ち、心地よく過ごせるよう配慮している。	リビングでの寛ぎが多く利用者は思い思い楽しんでます。換気や加湿等で室内環境を整えており、行事の写真や季節の飾りつけ、プランターで観葉植物を植え居心地よく生活出来るように取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に共有スペースを利用されたり、気の合った入居者同士で楽しく過ごされたりしている。また居室で過ごされる時には一人の時間も大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んでいた事で、環境の変化による不安を最小限に抑え、居心地よく過ごされるよう工夫している。	居室にはクローゼット、ベットが設置されておりその他物入れスペースがある部屋もあり利用者は筆筒、ケース、TVを自宅から持参して写真を飾り、居心地よく生活出来るように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所、お風呂場など、字と絵でわかりやすく表記している。		